

令和6年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立福山商業高等学校	校長	中原 健次	生徒指導主事	小林 泰崇
取組事例名	『体育祭』				

1 取組の設定	
取組を実施する意図及びねらい 集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の醸成、体力の向上などに資する。	取組を通して育てたい児童生徒像 【自律】自分の意見や考えをもとにして、物事を判断し、行動することができる。 【挑戦】目標に向かって現状や自己を把握し、主体的に行動できる。 【貢献】自分の役割を認識し、他者の意見や考えを受け入れ、協働的に行動することができる。



2 展開	
取組の具体的内容	取組の創意工夫
7月上旬 ~ 生徒会執行部による体育祭競技種目についての希望調査等の実施	生徒にめあてをもたせるために ・体育祭実行委員会を中心に、体育委員、生徒会執行部、放送部、各運動部の役割を明確にし、生徒主体の運営とする。 ・毎年、数種目の新種目を考えさせ、導入していく。
8月下旬 ~ 競技種目の決定、実施内容の確認、役割分担確認	
9月上旬 ~ 生徒体育祭実行委委員によるクラスメンバーの決定	生徒の意欲を高めるために ・主な練習はクラス単位の授業となるため、種目の選手以外もほとんどすべての種目を練習する。 ・クラスの団結意識を高めるために、得点種目ではない学年別クラス対抗リレーや着付け競争などを実施する。
9月中旬 ~ 各クラスリーダー・サブリーダーから学年団長・副団長の選出 生徒の役割分担の割り振り・確認	
10月上旬 ~ 各クラスでの種目練習	
10月下旬 リハーサル、生徒運営の確認	
10月31日 体育祭本番	
11月 体育祭の反省と課題を整理	生徒の頑張りを認め、価値付けるために ・学年対抗での表彰ばかりでなく、学年別クラス対抗リレーや着付け競争での表彰も行い、それぞれの頑張りを認め合った。



3 成果と課題
<p>○ほとんどの生徒が、リハーサルから本番の体育祭で筋肉痛になったと言ってくるほど、今持てる力を発揮してくれた。</p> <p>○運営もほぼ予定時間通りに進行でき、各役割の生徒が自分の責任を果たし、カバーしてくれた。</p> <p>●自分達だけが目立ちたい、楽しみたいという生徒も若干見られ、【貢献】の意識の醸成が必要。</p> <p>●体育祭だけの学校行事の満足度を図るアンケートを実施していないため数値化できなかった。</p>